

「8 月 31 日の夜に」

福島知津子

8 月 31 日に教育テレビでご覧になった方もおられると思う。朝から夜まで 1 日、ハートネット TV で放送された「8 月 31 日の夜に」というタイトル名で「どうか死なないで」というメッセージを伝え続けた 1 日があった。その理由は、「8 月 31 日に 18 歳以下の自殺が 1 年で最も多い」というものであった。中学、高校生のときに登校しなかった、または登校することに嫌な気持ちがあった司会者やコメンテーターとともに、憲法学者や精神科医も参加し、オンライン上でつながった「8 月 31 日、今日、とてもしんどい気持ちになっている生徒たち」といろいろと話をする番組であった。生放送、つまりライブで司会者やコメンテーターの話題やコメントに対し、即座に書き込まれた生徒達の気持ちが画面上にアップされたが、とてもリアルな不安な気持ちが続々と書かれ、放送された。

厚生労働省自殺対策推進室の資料 1、厚生労働省「人口動態調査」の調査情報の独自集計によると、以下の集計結果がでている。第 4-5 図「18 歳以下の日別自殺者数の多い日」は、以下のとおりである。しかも、ほかの若者の自殺と大きくことなる点は、動機が不明、事前に予兆がないのが特徴であるということである。

1 位：夏休み明け 9 月 1 日すぎ

2 位：4 月はじめ

3 位：5 月連休明け

この文章がアップロードされる頃には 9 月も中旬なので、少し再開した授業、再び毎日会うこととなったクラスメイトとのやりとりに慣れつつある時期であろうか。夏休みが終わる前に生徒を訪問したり、話を聞く機会を設けておられる学校、教員もおられると思う。

実は、筆者も授業を担当していた生徒がある日突然命を絶ったことがある。その動機はわからないままであった。告別式直後の授業を依頼され、その生徒のクラスメイトにとっても授業担当者にとっても、辛い 50 分間であったことを鮮明に記憶している（念のため誤解を招かぬように記すが、スクールカウンセラーから専門家としての観点より、あえて授業を行うようにと指示を受けたうえで授業を行った）。「そこに居てくれるだけで十分なんだ。」とすべての児童、生徒に伝えたい。

(専任講師 福島知津子 / 教員養成センター)